

# 三大明神風力発電・方法書縦覧 7月29日より

2011年3月11日の大震災、それに続く福島第一原発の事故により、いわき市北部の山と相馬・双葉地方の山は放射線量が高く登山できない状態に陥ってしまいました。事故以来5年経過し、放射線量も下がり一部の山を除いて登山可能となりました。

しかし、脱原発から自然エネルギーへの転換という動きの中で、茨城県から福島県浜通り地方を一大風力発電基地にする計画が出てまいりました。

その内容は、田人風力発電 12 基、三大明神風力発電 18 基、阿武隈山地風力発電（発電出力70万kw、3,500kwの発電機が200基）としていわき市北部から南相馬市に渡って風力発電を設置するというものです。高さ178mの風力発電機が230基も立つ風景を想像してみてください。

風力発電はエコというイメージがありますが既存の風力発電を調べてみると、①自然破壊と生態系への悪影響 ②有効な発電はしておらず、実際は何の役にもたっていない ③採算の取れているところはない ④超低周波等で健康被害が発生 ⑤バードストライク ⑥建設時に山林を広範囲に伐採、作業道路の建設、維持管理費用が莫大 ⑦地元の雇用はない 等の多くの問題があることが分かりました。

今回の風力発電構想が、このまま進められれば負の遺産を残し、故郷の自然を守らなければ取り返しがつかなくなってしまう。



## 環境影響評価手続きの流れ

- 事業者は計画段階に環境配慮書を作成 ①公告・縦覧
- ↓ ②意見書の提出 意見を有する者 関係市町村 知事
- 環境影響評価方法書を作成 ③公告・縦覧 ③説明会
- ↓ ④意見書の提出 意見を有する者 関係市町村 知事
- 環境影響評価の実施、準備書を作成 ⑤公告・縦覧 ⑥説明会
- ↓ ⑦意見書の提出 意見を有する者 関係市町村 知事
- 意見書に対する事業者の見解
- ↓ ⑧公聴会の開催 ⑧環境影響審査会
- 評価書の作成
- ↓ ⑨環境影響審査会 ⑩知事の意見
- 評価書の再検討 ⑪公告・縦覧
- ↓ ⑫許認可 ⑬工事の実施
- 事後調査

現在 阿武隈山地風力発電は手続きの②まで、三大明神風力発電は③の段階まで進んでおります。

7月29日から1ヶ月間三大明神風力発電環境影響評価方法書の縦覧が、市役所等で行われます。

7月29日以降、いわき市のホームページからリンクできますので、縦覧し意見を出していきましょう。問い合わせ先 いわき市生活環境部・環境企画課 0246-22-7528

(文責：秋葉)

# 風力発電問題レポート ver.3

(2016/7/29 いわき山岳会 佐藤勤)

(参考書籍)

- ①「再生エネビジネスがよくわかる本」今村雅人著(秀和システム) ②「風力エネルギー読本」牛山泉著(ohmsha)

<概要>

## (1) 発電コスト

石炭 12 円/kwh、太陽光 29 円/kwh、陸上風力 22 円/kwh、洋上風力 36 円/kwh

国の買い取り制度 2012 年導入

風力発電の電力について買い取り価格 20kw 以上 22 円プラス税、20kw 未満 55 円プラス税

## (2) 風力発電事業者

最大手 ユーラスエナジー(株) 豊田通商と東京電力が全額出資している。北海道や東北中心に事業展開し、56 万 kw の設備を保有。

2 番手 Jパワー(電源開発) 国内 19 カ所で 38 万 kw を操業している。

3 番手 日本風力開発 国内合計 29 万 kw の風力発電を開発中

## (3) 日本風力発電協会

中長期導入目標 V.4.3

2020 年 陸上風力 1020 万 kw

洋上風力 70 万 kw

2050 年 陸上風力 3800 万 kw

洋上風力 1900 万 kw(着床式)

1800 万 kw(浮体式)

(コメント) これによると、2050 年には風力合計 7500 万 kw で一般的原子力発電所の 75 基分に相当。現在の日本の原発 40 基以上を全て風力で賄うという破天荒な計画。自然破壊しても自分の業界のことは考えていないのかも？ それなら津波被害で人の住まなくなった三陸海岸の平野地帯に建設するとか、あるいは、津波を防ぐスーパー堤防上に風力発電機を設置してはどうか？ 元々洋上風力発電のポテンシャルが大きいので、これに注力すべきと思う。

## (4) 国内の大型風車メーカー

- ①三菱重工 ②日本製鋼所 ③日立製作所 ④駒井ハルテック

## (5) 環境アセスメント業者

風力発電事業者に代わり、適地調査や環境調査を行う環境コンサルティング会社が多数存在する。風力発電の環境アセスメントにおいて、国内トップシェアの事業者は「日本気象協会」となっている。

## (6) その他要旨抜粋

- ・風力発電量は風速の 3 乗に比例する。
- ・日本は山岳地帯が多く平野が少ない。大半が自然公園や保護林などの規制を受けており、適地への風車設置が困難な状況にある。今後自然環境との共生をどう図っていくか、関係機関と協議対応が必要。
- ・全国の風況マップは NEDO が公開している。LAWEPS=局所的風況予測モデル。

NEDO の風力発電ロードマップ(予測)によると

2020 年 陸上 620 万 kw、洋上 380 万 kw

2030 年 陸上 700 万 kw、洋上 1300 万 kw

- ・風車ブレードによる風切り音も低周波騒音の要因の一つ。
- ・欧州では風力に適した陸地が少ないため、洋上(オフショア)風力発電が拡大しつつある。つまりオフショア発電が主力の時代に移りつつある。欧州では水深 15m 未満の遠浅の海岸線が多いため。
- ・日本の場合は地形が複雑で、(特に陸地では)風速風向きが乱れや変動が大きい。雷の発生も多い。従って欧州製の風車は日本の気候に適合しない場合がある。
- ・日大生産工学部長井研究室「日本近海風況マップ」によると、日本でもオフショア風力発電が可能な膨大なエリアが存在している。
- ・洋上風力発電はポテンシャルが大きいですが、漁業権の保護、経済性、自然環境保護といった諸課題がある。
- ・ただし、水深が深いと設置工事が困難で、コスト高を招く問題がある。従って「浮体式風力発電システム」に期待がかかっている。(参考: 福島県常磐沖でも浮体式洋上風力発電の実験がスタートしている)

(書籍②の結論 217 頁より転載)

「日本のオフショア風力発電を巡る諸課題はつきないが、このオフショア風力発電こそが持続可能な世界を実現するための鍵で有り、海に囲まれた日本こそがそれを実現するのにふさわしい主役になり得るといえる」